

今月の

5冊

医療・ケア従事者のための 哲学・倫理学・死生学

清水哲郎

哲学の扉を開けてみる。

臨床では、常に「どうしたらよいか」を判断する場面に出会います。状況を適切に把握し、的確に実行に移す力が医療・ケア従事者に求められているのです。自らの実践を振り返り、ケアする姿勢と専門的知識や個別状況把握を整理し熟慮するために、哲学と倫理学、そして死生学の新しい扉が開きます。

医療・ケア従事者のための 哲学・倫理学・死生学

清水哲郎＝著

定価：2860円（本体2600円＋税10%）

発行：医学書院

実践家や学生と対話を重ねてきた著者による医療・ケア従事者のための哲学・倫理学・死生学の入門書。臨床場面では、常に状況を適切に把握し、的確に実行する力が求められる。しかし、判断に迷う場面も少なくない。本書は、自らの実践の振り返り、ケアする姿勢と専門的知識や個別状況を把握するあり方の整理、さらなるブラッシュアップを支援する。

ミシンと金魚

永井みみ＝著

定価：1540円（本体1400円＋税10%）

発行：集英社



第45回すばる文学賞受賞作となった、現役ケアマネジャーでもある著者による小説。主人公は、認知症のある老女の「あたし」。「これまでの人生をふり返って、しあわせでしたか?」。そんな問いを受け、交錯する記憶を辿りながら「あたし」のこれまでが語られ、凄絶な人生が立ち上がっていく。

TEAによる対人援助プロセスと分岐の記述 保育、看護、臨床・障害分野の実践的研究

安田裕子、サトウタツヤ＝編著

定価：3630円（本体3300円＋税10%）

発行：誠信書房



質的研究の1つであるTEA（複線経路等至性アプローチ）による対人援助に関する実践的研究の理解を深める書。TEAの基礎およびTEAを構成するHSI（歴史的構造化招待）、TEM（複線経路等至性モデル）を解説し、保育、看護、臨床・障害に関連した実践的研究を紹介する。

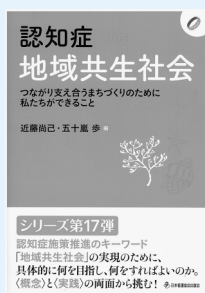
認知症plus 地域共生社会

つながり支え合うまちづくりのために私たちができること

近藤尚己、五十嵐歩＝編

定価：2860円（本体2600円＋税10%）

発行：日本看護協会出版会



地域共生社会は、制度や分野ごとの縦割り、支え手／受け手の関係を超え、暮らしと生きがい、地域をともにつくる社会だ。その実現のために、具体的に何をめざし、何をすればよいのか。医療・介護・福祉等の専門職や当事者・家族などによる取り組みを紹介し、地域共生社会につながる認知症ケアの仕組みづくりを解説する。

認知症の人を元気にする言葉かけ・ 不安にさせる言葉かけ

尾渡順子＝著

定価：1980円（本体1800円＋税10%）

発行：中央法規



本書は、不安からさまざまな行動をとってしまう認知症の人とのコミュニケーションを解説する書。介助場面別、BPSD出現場面別に、適切な言葉かけと対応、不安にさせる言葉かけと対応を整理して提示する。認知症のある人を支える家族はもちろん、専門職にとっても役立つ内容だ。